アジアのリーダー都市へ FUKUOKA NEXT

独立行政法人 国立病院機構

Webシンポジウム
感染症対応シティー：未来の姿は？

1．目的

新型コロナウイルスのパンデミックの出口戦略が議論される段階になってきたが、この時期に今までの対応を総括し次のパンデミックへの備えが求められる時期になった。中期的な対応を模索するなかでパンデミックや災害に強い医療施設・介護施設はどうあるべきか、またどのような街づくりが非常事態で求められるか今まで議論することが少なかった。今回のシンポでは建設や都市計画という視点から議論を深めたい。

2．対象者

医療・介護施設の将来計画に関与する職員、パンデミック・災害に関与する行政担当者

3．開催時期等

令和４年９月13日（火）
Ｗｅｂ方式で開催（17：30開始）

4．プログラム

開会の挨拶　**高島宗一郎**（福岡市 市長）
司会　森田茂樹（国立病院機構九州医療センター 院長）

1．医療施設や介護・福祉施設の未来

①臨時医療施設はいかに建設され機能したか？（12分）
岡田千春（国立病院機構本部 審議役）

②近未来の病院のデザインはどうあるべきか？（12分）
藤田昌樹（福岡大学病院 副病院長）

③介護・福祉施設に必要とされる対応は？（12分）
衣笠有紀（福岡市保健医療局健康医療部 部長）

2．感染・災害につよい施設や街を作るには？

④医療・介護施設を設計するには何が重要か？（30分）
河崎邦生（内藤建築事務所 東京本社 企画部）

3．感染症対応シティーのコンセプト

⑤感染症に強い国際都市を目指して（15分）
吉田宏幸（福岡市経済観光文化局 理事）

4．総合討論（30分）
討論者：　**講演者および荒瀬泰子**（福岡市 副市長）

閉会の挨拶　**森田茂樹**（国立病院機構九州医療センター 院長）

国立病院機構新型コロナウイルス研修事業